

市政トピックス

新本庁舎建設 ニュースNo.11



2階の柱と梁の組み立てがはじまりました

近年まれに見る大雪が積もり、建設現場でも雪かきに追われた2月でした。工事については1階の柱と梁の組み立てが完了し、現在、2階部分の組み立てが進んでいます。

また、108台が駐車できる地下駐車場では、足場が取り払われ、全体が見渡せる状態になってきました。下段写真2枚目の柱の上にある青丸で囲った部分が免震装置で、その上が1階の床です。この免震装置は完成時にはカバーで覆われて見えなくなります。



1階部分の様子（2月21日撮影）



地下駐車場の様子（3月5日撮影）

■本庁舎内庁舎建設推進課

TEL71・2000(代) FAX71・5000

市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会（内川勝治会長）は、本年度、審議してきた市の新しい協働のまちづくりの基本方針と行動計画（案）をまとめ、内川会長が2月25日、本庁舎で宮澤市長に報告しました。宮澤市長は「合併10周年を控え、協働を担う各主体を尊重しながら、新しいまち

づくりにも取り組んでいきたい」と話しました。基本方針では、「協働は、みんなが主役のまちづくり」と理念を掲げ、市民や区、各種団体、企業など協働の担い手となる各主体の役割や推進体制を示しています。また、行動計画では具体的施策として、各主体の情報共有のため、市民記者を市民活動センターに設置することや、

■みんなが主役 協働のまちづくり新指針等策定



宮澤市長に報告する内川会長（写真右）

地域リーダーなどの人材育成、推進体制確立のため自治基本条例（仮称）の制定に向けた検討や支所へ協働推進専門員の設置などを掲げています。この基本方針と行動計画の実施期間は平成26～30年までで、委員会では計画の進捗状況の評価も行います。市では概要版を4月に全戸に配布する予定です。

■大雪対策本部と被害農家の支援窓口を設置

発達した低気圧と上空の寒気の影響で2月14日から15日にかけて、関東甲信地方を中心に記録的な大雪になりました。観測地点のある松本市では、2月の24時間降雪量としては過去最高の42センチを記録しました。市では、14日に大雪対策本部を都市建設部のある豊科総合支所に設置し、除雪などの対応にあたりました。

や特産品の一つワサビ用のハウスが倒壊するなど大きな被害が出ました。市内全域では194棟（総面積約3万1000平方メートル）が倒壊しました。（3月6日午後4時現在）被害が広範囲におよぶことから、国・県、近隣自治体間と連携し、支援内容の検討調整を進め、詳細が決まり次第、広報などでお知らせする予定です。

また、市では大雪対策本部の設置した2月14日、被害農業者の支援窓口を設置し、農家からの相談に応じるほか、JAと連携し農業用ビニールハウス等の被害状況の確認を行っています。

市民生活に影響

市内では除雪作業のため、JR大糸線が運休し、国道19号、長野自動車道が通行止めになりました。また、県外からの流通が滞ったため、食料品などが品薄になるなど市民生活に大きな影響が出ました。

農業分野で大きな被害

農業分野ではビニールハウス

2月豪雪による被害農業者支援窓口

■豊科課生産振興係
TEL77・3111(代) FAX77・6060



大雪対策本部（豊科総合支所）



積雪により倒壊した農業用ハウス（堀金烏川）



市民による除雪作業（豊科）



通行止めとなった国道19号（明科南陸郷）